

平成28年10月13日

## 「瀬戸内国際芸術祭2016」香川大学提案プロジェクト事業

## 「 フルートとギターの Duo Concert - 海の思い出 - 」を開催します！

香川大学では、瀬戸内国際芸術祭2016香川大学提案プロジェクト事業として「フルートとギターの Duo Concert - 海の思い出 - 」を高松市美術館で開催します。武満徹の「海へ」、ピアソラの「タンゴの歴史」ほか秋の海の雰囲気をもつ満喫できるアートに囲まれたコンサートです。

フルートとギターによる名曲の数々をお楽しみください。皆様のお越しを、心よりお待ちしております。

## ◆ 行事名 「フルートとギター Duo Concert - 海の思い出 - 」

フルート/<sup>あおやまゆうか</sup>青山夕夏（香川大学教育学部教授）

クラシックギター/<sup>かみがいちとしみつ</sup>上垣内寿光（クラシックギター奏者）

## ■ プログラム

武満徹 : 「海へ」「ITINERANT -In Memory of Isamu Noguchi-」

上垣内寿光 : 「クリシュナのバターボール」

A.ピアソラ : 「タンゴの歴史」 ほか

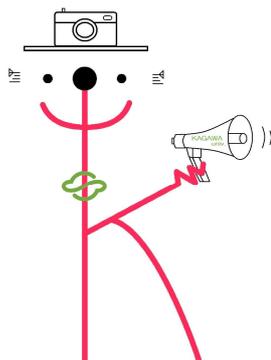
■ 日時： **2016年10月15日（土）** 17:00～18:00（開場16:45）

■ 入場料：無料（整理券不要）

■ 会場：高松市美術館 1階エントランスホール（高松市紺屋町10-4）

■ 主催：香川大学 ■ 共催：高松市美術館

■ 後援：瀬戸内国際芸術祭実行委員会



## ➤ お問い合わせ先

香川大学教育学部 教授 青山 夕夏

〒760-8522 高松市幸町1番1号

TEL : 087-832-1472 FAX : 087-832-1417

E-mail : aoyama@ed.kagawa-u.ac.jp

※上記不在の場合

学術・地域連携推進室地域連携推進グループ 小西

TEL : 087-832-1368 FAX : 087-832-1357

E-mail : chiiki2@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

ピアソラが作曲した唯一のフルートとギターのための作品である。タンゴの歴史を1900年から以下のように30年ごとに括り、タンゴが演奏されていた代表的な場所をイメージした4楽章から成る。現在のタンゴオーケストラはバンドネオン、ピアノ、ヴァイオリン、ベースなどを主として構成されるが、ピアソラはタンゴがダンスの伴奏音楽であった初期に使用されていたフルート、ギターをイメージして作曲した。

- I 酒場 1900年 誕生した頃のタンゴは、上品な場所で踊られていたわけではない。当時の快活さがミロンガの軽妙なリズムとともに提示される。
- II カフェ 1930年 タンゴオーケストラの規模が次第に拡大していく。単なる踊りの音楽から次第に脱却し、音楽的な成熟を見せる時代。名歌手も登場してヨーロッパでも人気を博す。
- III ナイトクラブ 1960年 伝統にこだわりがちだったタンゴの人気に陰りが見えはじめる。ピアソラ自身も伝統的なリズムから脱却し、斬新なメロディーをたずさえ、次第に改革の先頭に立つことになる。モダン・タンゴのスタイルを反映させた作品。
- IV 現代のコンサート 初演版でのタイトルは「コンサート1990」。不協和音なども取り入れながら、タンゴのさらに進化した姿を表現している。

## Profile

あおやま ゆうか  
Flute フルート **青山 夕夏**  
Yuka Aoyama

東京藝術大学附属音楽高校、同大学ならびに同大学院修了。  
シュツットガルト音楽大学マスターコース修了。  
在学中よりシュツットガルト・フィルハーモニーで活動。

フランス、ドイツ、中国、韓国、日本で「フルート・リサイタル」を行うほか、在フランス日本大使館、在中国北京日本大使館、香港大学、北京音楽ホール(日中国交回復20周年記念演奏会)などで演奏する。北京中央音楽学院、上海音楽学院、韓国等でマスターコース講師をつとめる。各種コンクール審査員。第8回アジア・フルートコングレス、第4回アジア・フルートコンクール神戸2016事務局長。

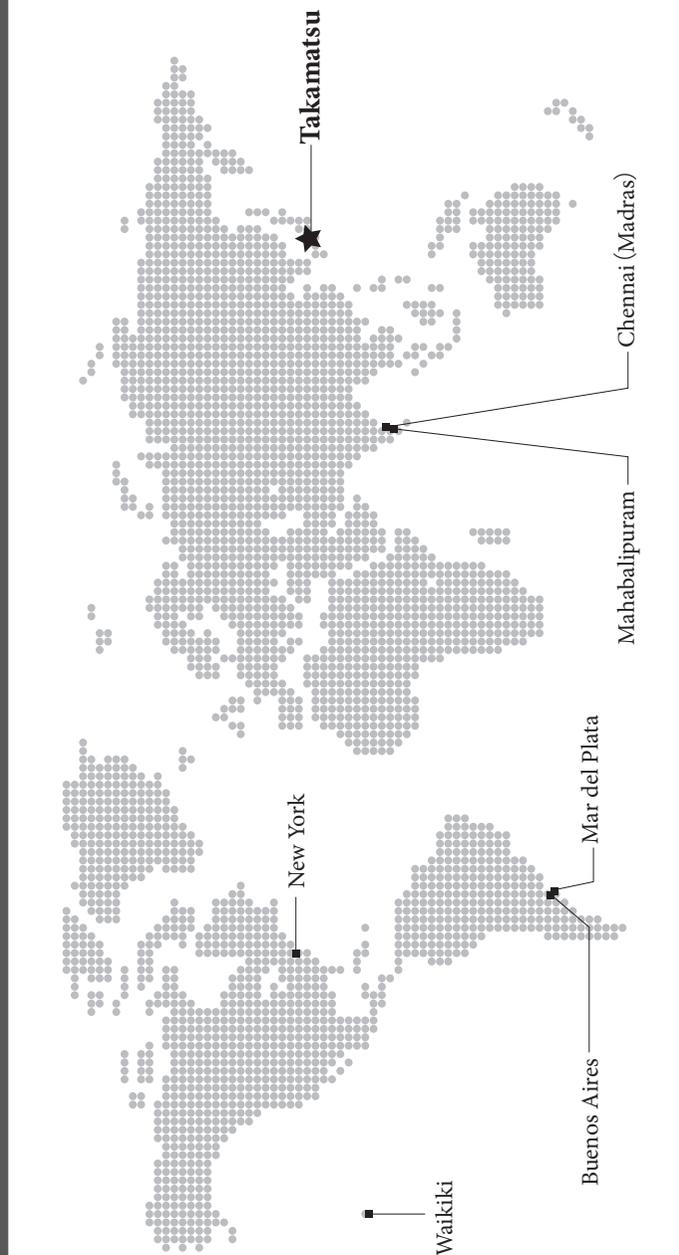
現在、香川大学教授、アジア・フルート連盟日本理事。

かみがいち としみつ  
Classical Guitar クラシックギター **上垣内 寿光**  
Toshimitsu Kamigaichi

エリザベト音楽大学を飛び級し大学院修了。広島中村奨学金を得て渡独。カールスルーエ音楽大学卒業、ワイマール・リスト音楽院、演奏家課程修了。名古屋ギターコンクール優勝、大阪ギター音楽大賞最優秀賞、九州ギターコンクール第2位(1位なし)、山陰ギターコンクール第2位(1位なし)、日本ギターコンクール第3位、2004年度イタリア・ガルニャーノ国際ギターコンクールファイナリスト、2007年度第22回イタリア・ロベレドール国際音楽コンクールギター部門第2位(1位なし)などに入賞。第149回日本演奏連盟新人演奏会にて広島交響楽団と共演。韓国、インド等アジアでも精力的に演奏活動を行う。

現在、エリザベト音楽大学ギター科非常勤講師、ライフワン・ミュージックスクール講師として後進の指導にあたっている。アンサンブル・チアロ指揮者、クレイジークラシックスメンバー。

◆「瀬戸内国際芸術祭2016」香川大学提案プロジェクト参加コンサート実行委員会  
岡島有里(委員長) 小林遼香 岩田えりか 中村菜摘 東山莉奈 宮武愛佳  
妻鹿杏奈 山崎遥菜 山辺未希 藤川彩音 大塚真由 中川果歩 大平伊織  
原百合子 東はるか 宮内知代



Flute et Guitare

# Duo Concert

## Flute et Guitare

Memories of the sea

フルートとギター・デュオコンサート ～海の思い出～

2016.10.15 [土] PM17:00

会場：高松市美術館1F エントランスホール

主催：香川大学  
共催：高松市美術館  
後援：瀬戸内国際芸術祭実行委員会

## Duo Concert

Flûte Yuka Aoyama 青山夕夏  
Guitare Toshimitsu Kamigaichi 上垣内寿光



## Program

### 1. Toru Takemitsu : Itinerant

—In Memory of Isamu Noguchi—

武満徹：巡り —イサム・ノグチの追憶に— (1989)

### 2. Toshimitsu Kamigaichi : Krishna's Butter Ball

上垣内寿光：クリシュナのバターボール (2000)

### 3. Toru Takemitsu : Toward the Sea

武満徹：海へ アルト・フルートとギターのための (1981)

- I. The Night 夜
- II. Moby Dick 白鯨
- III. Cape Cod 鱈岬

### 4. Toru Takemitsu : 12 Songs for Guitar Arranged

Harold Arlen : Over the Rainbow

Lennon & McCartney : Yesterday

武満徹編曲 12の歌より (1977)

オーバーザレインボー (虹の彼方へ), イエスタデイ

### 5. Astor Piazzolla : Histoire du Tango

A. ピアソラ：タンゴの歴史 (1986)

- I. Bordel 1900 酒場 1900
- II. Cafe 1930 カフェ 1930
- III. Nightclub 1960 ナイトクラブ 1960
- IV. Concert d'aujourd'hui 現代のコンサート

## Program Note

### 1. Toru Takemitsu : Itinerant —In Memory of Isamu Noguchi—

武満徹のデビュー作《弦楽のためのレクイエム》は、早坂文雄 (作曲家) の死を悼んで書かれたものだが、彼は、その後も数多くのレクイエムを創作している。他に《雨の樹素描 II—オリヴィエ・メシアンへの追憶に》《トゥイル・バイ・トワイライト—モートン・フェルドマンの追憶に》《怪—ヴァイトルド・ルトスワフスキの追憶に》といった作品があり、イサム・ノグチの思い出を込めたこの曲もそのうちの一つに数えられる。

武満徹には、友人イサム・ノグチの彫刻展 (1973, 南画廊) のカタログに寄せた「旅するもの」というタイトルの一文がある。その中で彼にとってのノグチの仕事を「ちよど旅という言葉で言い表すことがふさわしい憧憬の糸で繙 (めいと) っていたように思う」とし、ノグチの作品から受ける印象について次のように記している。

ノグチから私に反映するものは、無限定でありながら、つねに確かな一つの感触として通奏する響きとして働きかけてくる。それはノグチの仕事がたんに美術品として彫刻を造りあげることで終るようなものではなく、物と生命の本質に関わる果てしない追究からである。ノグチの作品表現は、たどり着いた結果として為されるのではなく、それはいつでもはじまりの予感に充ちた永遠への止め難い欲望をしている。

さらにこの曲についての、武満自身のプログラムノートには「ノグチはその生涯を通じて旅する人でありつづけたが、この曲は、ノグチの旅のように幾つかの地点を経巡りながら変化を続けていく」とあり、武満がノグチの彫刻から受けた永遠の追究が、旅をキーワードに経巡り続ける変化というかたちをとって彼の音楽に反映されている。初演は、ニューヨークのイサム・ノグチ美術館。

### 2. Toshimitsu Kamigaichi : Krishna's Butter Ball

インド南部の港町マドラス (チェンナイ) から南へ60kmほどにあるマハーバリプラムという村を旅した時に書いた作品である。その村の中央広場にはクリシュナのバターボールと言われる巨岩石があり、丘の上から今にも転がり落ちそうなバランスで何千年も人々の生活を見守っている。数日滞在中でその神秘的な石に魅せられ1つのギター独奏曲を作曲することを決意した。朝方、村の方から何気なく聞こえてきた歌のメロディーの断片をスケッチし、それを元に変奏を加えた作品である。(上垣内寿光)

### 3. Toru Takemitsu : Toward the Sea

- I. The Night 夜
- II. Moby Dick 白鯨
- III. Cape Cod 鱈岬

この作品には、アルト・フルートとギター版 (1981)、弦楽オーケストラ版 (1981年)、最後に書かれたアルト・フルートとハープ版 (1988年) の3種類があり、作曲者自身の思い入れの深さがうかがえる。本作「海へ」のように海をモチーフにした作品が書かれ始めるのは1980年になってのことで、この作品はおりしも「調性的海へ船出した時期の代表作となっ

た。3つの楽章は、海 (SEA) を表す音名 E $\flat$  (Es)・E・A の3つの音を旋律に織り込んで進行する。この3つの音について触れた、武満徹の執筆活動の最後となった文章「海へ!」(雑誌『波』1996年3月号) を以下に見ておこう。

E $\flat$ ・E・A の3つの音は、ここ15年程の、私の、音楽発想の基調音となっている。E $\flat$  は、独乙音名では英語の S (エス) なので、この三音は SEA、つまり (英語の) 海ということになる。この音程はあくまでも私の音感が根拠のもので、海という象徴的音名は偶然にすぎない。だが、この地上の異なる地域を結ぶ海と、その千変万化する豊かな表情に、しだいに、こころを奪われるようになった。できれば、鯨のような優雅で頑健な肉体 (からだ) をもち、西も東もない海を泳ぎたい。

この文章のオリジナルは1964年、武満がジョン・ケージ (John Cage) とワイキキ・ビーチの沖合で潮を吹くザトウクジラを見た時に書かれたという。そのときのような俳句も残している。

E'en. See SEe...sense...SeNSE...

〔夕暮れに、海を眺めて、本質を感じる。西 (W) も東 (E) もあるものか。〕

### 4. Toru Takemitsu : 12 Songs for Guitar Arranged

Harold Arlen : Over the Rainbow

Lennon & McCartney : Yesterday

「ギターのための12の歌」は、荘村清志 (Guit.) のために書かれた編曲集。各曲とも2~4分程度の小品で、武満らしいハーモニーで彩られている。荘村清志の「ギターリサイタル」のためには《フォリオス》(1974年) (最後に《マイア受難曲》のコーラルが登場する)、1993年に「エキノクス」(1994年初演) も作曲し、貴重なギター作品となっている。

#### ■ Over the Rainbow

アメリカのミュージカル映画「オズの魔法使い」(1939) のテーマ曲。ある日、竜巻で家ごとオズの国に飛ばされた少女ドロシーが、元の国へ戻るまでの物語。作詞は E.Y. ハーバードでジュディ・ガーランドが歌って大ヒットした。

*Somewhere over the rainbow*

*Way up high*

*There's a land that I heard of*

*Once in a lullaby* . . . . .

#### ■ Yesterday

1965年のビートルズのアルバム、「HELP!」に収録されているポール・マッカートニーとジョン・レノンによる楽曲。

*Yesterday, all my troubles seemed so far away*

*Now it looks as though they're here to stay*

*Oh, I believe in yesterday* . . . . .

### 5. Astor Piazzolla : Histoire du Tango

A. ピアソラはアルゼンチンの港湾都市マル・デル・プラタ (Mar del Plata) にイタリア系アルゼンチン人として生まれた。幼少期はニューヨークに居住し、ジャズの素養も身に付けた。タンゴの最先端楽団でバンドネオン奏者として頭角を表した。

タンゴは、アルゼンチンの首都、ブエノスアイレスの港町、モンテビデオ近辺のラ・プラタ川流域で生まれたとされるダンス音楽であるが、当初は場末の音楽としてアルゼンチンでは評価されていなかった。しかしパリで大流行し、社交ダンスにもなったことで、逆にアルゼンチンでの評価が高まったという経緯がある。ピアソラは、ブエノスアイレスで A. ヒナステラに作曲を学んだ後、1954年にはパリに留学し、当時最高の音楽教師として知られた N. プーランジェに師事。タンゴがピアソラ音楽の神髄であることを指摘される。

ピアソラの音楽が純粋にタンゴに属するかどうかは、議論の分かれるところだが、タンゴの持つ可能性を極めた音楽であることに間違いはなく、1990年代以降、世界的に広く親しまれるようになった。

この曲は、マルク・グローヴェルズ (Fl.) とギー・ルコフスキー (Guit.) の委嘱で